

「キャンパスの一体化・学部再編中間報告(その1)」

拡大マスタープラン委員会

(資料)

・ 全学園共通の理念に基づく日本女子大学の改革に向けて

①新学部その1 <新学部の設立>

②家政学部その1 <家政学部>家政学部+社会福祉学科+現代社会学科

③新文学部その1 <新文学部案>

④新理学部その1 <理系・行動科学系新学部構想案>

⑤外部機関による提案その1

⑥新通信その1 通信課程 全学展開改革

全学園共通の理念に基く日本女子大学の改革に向けて
(改革案の途中経過ご報告 および 試案ご検討のお願い)

2006年10月19日
拡大マスタープラン委員会

本学は、創立以来、時代に先駆けて日本の女子高等教育の道を切り拓いてきました。戦中戦後の困難を乗り越え、多分野に有能な人材を輩出し、時代とともに歩んできました。21世紀に入り、女子教育の意味も変わってきた今、全学園共通の教育理念を問い直すこと、またそれを広く社会に喧伝することが必要である、と、昨年の一貫教育研究集会でも強く求められました。そこでマスタープラン委員会では、新たな教育理念の文案作成を試みてまいりましたが、2005年度、2006年度のマスタープラン委員会および現・拡大マスタープラン委員会での検討を経て、このたび教授会に提案する運びとなりました。(本日教授会資料・審議事項 参照)

今、私たち全学園の教職員に肝要なのは、現代における女子大学の存在意義を十分に自覚し、本学独自の教育理念を、誇りを持って共有し、全学一丸となってその実践に努め、社会の要請に即した教育研究を進めていくことと信じております。

確かに最近では、数年来の財政難、大学と付属校園間や2キャンパス間の連絡・協同の難しさ、少子化による受験生の減少など難題を抱え、強い危機感を持つ教職員も多くあります。しかし、本学の百年来の伝統と常に時代をリードしてきた先進性、そうして培われてきた実績と信用、その間に巣立った卒業生の各分野での活躍は、内外に広く認知されており、一朝一夕に崩れ去るものではないはずです。ただし、2005年度の本学の自己点検に対する大学基準協会の意見書は、まさに、この実績と信用が適切に生かされず、見えにくくなっていることを指摘しています。つまり、人材・施設を効率良く活用できていないこと、教育理念と実践を社会に明示し得ていないということです。

そこで拡大マスタープラン委員会では、全学の人材・施設を最も効率良く活用し、それを受験生や社会に分かり易く提示できるような改革案を検討しております。各学科固有の意向・事情を十分汲み取るべく、夏休み中には学科会議で討議していただき、貴重なご意見をたまわりました。先日の全教職員の意見交換会では、わずかな時間で文字通り意見の交換に留まりましたが、理事長、大学改革・キャンパス一体化検討委員会委員長、拡大マスタープラン委員長はじめ、両キャンパスの各学部の先生方、職員の生の声を聞くことができました。そうした声を踏まえて、拡大マスタープラン委員会は、さらに協議を進めておりますが、各委員は、所属学科の利益代表者としてではなく、あくまでも全学的な視野に立ち最善の改革となること、また目先の損得ではなく、5年後10年後に豊かな実りを結ぶことを目差しております。

各教授会の多数のご理解と十分な討議なくして改革はあり得ません。拙速な見切り発車は避けなくてはなりません。できることなら所謂「2007年」に遅れをとらずに公表できることを目差して、委員会は日夜を問わず協議を重ねてまいりました。まだ試案の段階ではありますが、いくつかの試案を各教授会でご議論いただけるようお願いいたします。

<新学部の設定>

家政経済学科＋社会福祉学科＋現代社会学科

理念

統合することのメリット

社会科学の学科が一緒になることによって、専門性をより深めるとともに、学生の科目の選択の幅を広げることが可能になる。

今後のニーズ

女子学生の関心が経営やビジネスに移りつつある。また、ビジネスにおいては広く社会の変化を探り、その変化の要因を分析できる人材が求められるようになってきている。現在は、経済系の学科は目白。社会科学系の学科は西生田にあるために、企業のニーズにマッチした人材教育がおこないにくい。3学科が一緒になることで、より今後のニーズにあった教育科目を提供し、学生を社会に送り出すことができる。

他学科にも経済や経営の科目を提供することによって、学科をこえて女性キャリア・インスティテュートを展開する場合にも、核となる科目を提供することができる。

なお、この学科は法、経、社会福祉、NPO・NGO、ボランティア、起業家・政治家などを中心に育成する。また、再就職を考える社会人のニーズにも応えうる学部であると考えられる。

新学部が決定された場合に、上記の3学科が協議し、学科名・数・人事関係を提案する。

新学部の名称案

社会経済学部 (Faculty of Socio-economics)

社会科学部 (Faculty of Social Sciences)

キャリアデザイン学部 (Faculty of Career Design)

<新文学部案>

伝統的な文学部3学科で学びたい学生のみでなく、より学際的な視点や、教育実践という応用に関心をもつ学生をも受け入れる。そのことによって、学科を越えたコース（副専攻）を有効に活用することにより、学生の広く自由な選択を可能にし、教員同士も協力・刺激し合ってより活気のある学部にしたい。語学教育の母体を集約させることにより、全学的に、より効率のよい語学の基礎科目教育システムを構築することができる。
文学・歴史に、文化・芸術が加わることにより、豊かな専門教育を提供できる。

学部学科構成

日本文学科
英文学科
史学科
文化学科
教育学科

旧人社の2学科が文学部に併合することのメリット・デメリット

教育 文学部の既存の学科とは内容的に競合はしないだろう。教職（中・高の教員免許取得のための）教育（英語、国語、社会科）において、他学科との連携がより容易になる、というメリットがある。文学部の他学科の学生の希望者に対して、人数を制限した上で、小学校免許取得の可能性が開ける。今まで教育学科が築いてきた、東京都、神奈川県や企業との、インターンシップやボランティアに関する連携関係を今後も継続させ、文学部他学科、全学的にも拡大させることが出来る。

文化 受験生にとって他学科との明確な違いが分かりにくい部分もあり、学科名名称変更の検討も必要であろう。各教員の専門に基づく授業に関しては、他学科と競合しない。

文化学科：学生は比較研究・地域研究・視覚文化研究に分かれる。

学際的視点、従来の研究の伝統的枠組みを超えた文化研究である点、また、語学関係の教育に特に力を入れている点が特徴

<理系・行動科学系新学部構想案>

学科構成

- ・数物科学科
- ・物質生物科学科
- ・心理学科

学部名称 広域科学部

理念 従来の自然科学に限定されず、より広く心を含めた科学の体系を学ぶ。

キーワード 物質、生命、心、情報、脳、これらを総合的に学ぶ。

<外部機関による提案>

別図(リベラルアーツ学系、プロフェッショナル学系)参照

理念

1. 社会のニーズに柔軟に即応できる体制を作る。
2. 本学が提供する専門領域の内実が高校生を含む社会から見えやすいようにする。

概要

1. 教育の内容及び目的を基準に、「リベラルアーツ学系」(以下、「リベ系」と略称)と「プロフェッショナル学系」(同、「プロ系」)を設ける。
2. リベ系はさらに文系・理系の2体系をもって構成される。

趣旨

1. リベ系は、特定の分野における専門的知識を学ぶことを通して学問の方法を修得するとともに、深い見識と広い視野を持つ人材を育成することを目的とする。
2. このために、多数の科目群(専修)を設ける。これらは現在の文学部の全部・人間社会学部の一部・理学部の大部分を母体として構成される。
3. プロ系は、特定の分野における専門的知識と技能を身につけることによって、広く社会に有為な人材を育成することを目的とする。
4. このために7学科17専攻を設ける。これらは現在の家政学部の大部分と人間社会学部の一部・理学部の一部を母体として構成される。

文系学問

理系学問

リベラルアーツ学部(仮称)

リベラルアーツ科目群

基礎的能力科目群

リベラルアーツ科目群

日本文学科	日本文学科目群	日本語表現科目群
	日本語学科目群	漢文学 科目群
英文学科	英文学科目群	英語コミュニケーション科目群
	比較言語学科目群	
史学科	西洋史科目群	東洋史科目群
	日本史科目群	
文化学科	国際文化科目群	国際社会科目群
	視覚文化科目群	人類学科目群
	表現芸術科目群	社会メディア科目群

基礎的能力科目群

リベラルアーツ科目群、
基礎的能力科目群の中から
複数を選択可能

学問横断プログラム

国際協力プログラム	地域社会プログラム
環境問題プログラム	数理情報プログラム
⋮	

物質生物科学科	化学科目群
	生物学科目群
	分子生命科学科目群
	環境科学科目群
数物科学科	物理学科目群
	数学科目群
	統計解析科目群
心理学科	心理学科目群

全学共通テーマ「女性キャリアディベロップメント」に関するプロジェクト活動
(LCC・西生田生涯学習センター・地域貢献センターの活動を通じた取り組み等)

プロフェSSIONAL学部(仮称)

社会福祉学科

社会福祉専攻
福祉政策専攻

児童学科・
教育学科

保育・幼児教育専攻
保育支援専攻
初等中等教育専攻
生涯教育専攻
教育臨床専攻

被服学科

アパレル企画専攻
服飾マテリアル専攻

家政経済学科

生活マネジメント専攻
企業マネジメント専攻

食物学科

食物健康学専攻
管理栄養士専攻

住居学科

居住環境専攻
建築デザイン専攻

数物科学科

応用理学専攻
情報システム専攻

リベラルアーツ学系

プロフェSSIONAL学系

※図中の学部・学科・専攻・科目群・学問横断プログラム等の名称はすべて仮称。

通信課程 全学展開改革
10/19マスタープラン委員会作成案の修正案

